



にしだ小児クリニック併設

病児保育室 クオレ

感染性胃腸炎

流行のお知らせ



流 行	<p>5月下旬頃から。細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。</p> <p>傾向として、ウイルス感染（ロタウイルス、ノロウイルスなど）は、毎年秋から冬にかけて流行し、夏場になると（細菌腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクターなど）による感染性胃腸炎が増加します。</p> <p>細菌は高温で湿気が多い環境を好むため、ジメジメする梅雨から夏場には細菌性の胃腸炎が増加するということが挙げられます。</p>
症 状	<p>主症状は、嘔吐、腹痛や下痢、血便などの下腹部の症状です。</p> <p>嘔吐・下痢がひどい場合は、水分摂取を促したり、飲水ができなければ、病院で点滴を行ったりします。ウイルス性胃腸炎では、電解質や糖がバランスよく配合された経口補水液を口から補給して、脱水や低血糖を防ぐことが必要です。</p>
特 徴	<p>乳幼児に好発し、主症状は嘔吐と下痢であり、種々の程度の脱水、電解質喪失症状、全身症状が加わります。37～38℃の発熱がみられることもあります。</p> <p>年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。大人と比べて、子どもは脱水になりやすく、また低血糖を起こしやすいという傾向があります。</p> <p>1歳以下の乳児は症状の進行が早いので、発症した場合は注意が必要です。</p>
予 防	<p>患者の便や嘔吐物の処理を行う場合は、換気を十分に行い、使い捨て手袋やマスクを着用した状態で、病原体が舞い上がらないように静かに拭き取るようにしましょう。拭き取った後の床は、消毒液を染み込ませた布やペーパータオルで覆い、浸すように拭きます。ウイルスが原因の場合はアルコールの消毒が無効ですので、次亜塩素酸ナトリウムが含まれた消毒液を使用してください。</p>